



図書館だより



図書館ホームページアドレス <https://lib.city.irusa.saitama.jp/>

No.60

令和7年4月号

【4・7・10・1月発行】

発行：入間市立図書館

本館 04-2964-2415

西武 04-2932-2411

金子 04-2936-1811

藤沢 04-2966-8080

ご利用ください

入間市立図書館公式ホームページ

<https://lib.city.irusa.saitama.jp/>



入間市立図書館公式ホームページで見る・知る・できることを一部ご紹介します。
新年度が始まったこのタイミングで、機能をおさらいしてみませんか？

01 お知らせ・イベント情報

図書館に関するお知らせ
開催中 または予定のイベント情報
図書館だよりのバックナンバーも

02 蔵書検索

入間市に所蔵のある資料の検索
所蔵館や種別（図書／CD／…）で
検索可能！

03 予約

所蔵資料の取り置き
来館せずに予約可能！
※パスワード登録が必要です

04 My本棚（利用者メニュー）

読みたい本・お気に入りの本を登録
過去に借りた本の一覧の確認
※貸出履歴閲覧は同意が必要です
同意後から履歴が保存されます

05 新着案内

毎月の新刊をご自宅からチェック！
そのまま予約も可能

+α メールアドレス登録で もっと便利！

メールアドレスを登録すると
予約資料のご用意のお知らせが
メールで届く！
メールマガジン（申込制）も配信中

やまばと号の運行日時が変わります

豊岡	東金子	宮寺・二本木	藤沢	西武
四季の丘 1・3土 9:50~10:20 黒須団地 毎週火 9:40~10:10 黒須地区センター 毎週金 9:55~10:25 扇町屋地区センター 久保稲荷分館 毎週火 14:10~14:35 入間ビレジ 毎週土 10:40~11:15	東金子地区センター 毎週金 14:15~14:40 ハynes入間 毎週木 14:05~14:25 入間台 毎週土 13:45~14:15	博物館 1・3・5水 9:55~10:25 宮寺・二本木地区センター 二本木分館 2・4水 9:55~10:25 金子 マミーマート 毎週水 10:45~11:15	東藤沢地区センター 毎週木 9:55~10:25 ヨークマート 入間店 毎週木 10:45~11:15 カワチ薬品 毎週土 14:50~15:20	仏子ニュータウン 毎週火 10:45~11:15 ファミリーマート 入間野田店 毎週水 13:45~14:10

令和7年
4月1日～



読み聞かせボランティアグループの広場



図書館で活動している、読み聞かせボランティアグループのどんぐり（本館）・かざぐるま（西武分館）・おはなし^{まどか}円（西武分館）・茶の花（金子分館）・トトロ（藤沢分館）です。
各グループより、最新情報をお届けします。

どんぐり

新年度が開始しました。新しい出し物にチャレンジしたいと思っています。毎月第3火曜日13時30分から図書館2階研修室Aで定例会を行っています。読み聞かせに興味のある方大募集です。一度遊びに来てください！！もちろん毎週土曜日・日曜日14時からのおはなし会と、毎月第3火曜日11時からの赤ちゃんおはなし会も行っています。楽しい本、新しい本、紙芝居などを用意して待っています。みんな遊びに来てね。

かざぐるま

毎週土曜日・第1第3日曜日、おはなし会の“のぼり”が立っています。それを見て多くのお友達が来てくれたらいいなあ～と思っています。絵本を読んでいくと今までとちがったことに気が付くことがあります。それを皆さんと共有します。4月になり新しいお友達が来てくれるのを待っています。春のおたのしみ会も準備しています。ぜひ来てくださいね。

おはなし^{まどか}円

「大人のためのおはなし会」

令和7年4月11日（金）13時30分から15時 西武分館にて
年に一度のおはなし会です。ぜひお越しください。

茶の花

「茶の花」は、昨年発足20周年を迎えました。おはなし会（毎週木曜日・第1第3土曜日）は、どなたが来ていただいても楽しく笑顔すごしていただけますので、子どもさんから大人の方の1人参加も大歓迎です。お待ちしております。土曜日のおはなし会のあと、図書館スタッフさんによる折り紙や簡単工作もやっています。きてね。

トトロ

4月から藤沢分館では、土曜日のおはなし会の日が増えることになりました。おはなし会は、毎週木曜日・土曜日の11時からです。ぜひぜひ、おはなしコーナーにおいて下さいね。みんなで絵本や紙芝居を楽しみましょう。



大人のためのBookガイド



～図書館職員のおすすめ本を紹介します～



『東京・足立区のおいしい給食レシピ おいしさも安心も日本一を目指す！』

足立区教育委員会おいしい給食担当課／著 主婦の友社 <596/ト>

東京都足立区立の小・中学校の給食がおいしいと評判なのを知っていますか？

足立区は、2007年から積極的に給食事業へ取り組んでいます。旬の食材や地元のものを取り入れながら、子どもたちの好き嫌いをなくす工夫がされた献立で、問題だった給食の残菜量も大きく減少しました。今では多くの自治体が足立区の給食現場の視察にやってくるほどです。…足立区ですが、実は入間市も、全小学校が自校給食校であるなど給食には力を入れています。ご存じでしたか？

おいしい給食のレシピがたくさん載っている本書は、子どものために栄養のある食事を作りたい方から、今日の献立に悩んでいる方まで、多くの人に役立つ1冊です！

『流行歌で振り返る昭和100年 歌は世につれ』

合田道人／著 笠間書院 <767.8/ゴ>

2025年は昭和が始まってちょうど100年目(昭和元年は1926年)。若い人々のあいだで昭和歌謡がブームになっているそうです。本書は、見開き2ページで1年間に起こった出来事と、その年に流行った歌について解説しています。「歌は世につれ世は歌につれ」といいますが、流行歌とともに昭和から平成、令和の現在に至る100年の現代史が鮮やかに蘇ってくる1冊です。



『西洋アンティーク・ボードゲーム』

エイドリアン・セビル／著 鍋倉 僚介／訳 日経ナショナルジオグラフィック社

<798.023/セ>

日本のボードゲームには、現代日本を舞台にしたものから、なつかしの双六など様々なものがありますが、時代はさかのぼり19世紀の遠い西洋にも奥深い遊びの世界が広がっていました。この本は主に19世紀の西洋版双六を89種類掲載しています。印刷技術の発展とともに、より美しく鮮やかに洗練されていくデザインを追いながら、遊びの世界という、歴史書とは別の目線から当時の人々の日常を追体験することができます。

不思議なルールから奥深い設定に彩られたアンティークボードゲームの世界を探検してみましょう。



『ダンス』

竹中優子／著 新潮社 <913.6/タケナ>

主人公の「私」は新卒入社3年目の会社員です。ここ最近、同じ部署の3人が欠勤を繰り返し、その3人分の仕事のしわ寄せを受けていた私は毎日イライラを募らせていました。

そんな3人のうちの、数少ない頼れる先輩の1人であった下村さんから、彼らの三角関係について知らされます。下村さんと私の絶妙な距離感、職場での人間関係、そしてお互いのこれから。日常の中の人間ドラマを鋭く描いていて、共感することや気付かされることも多く、とても身近に感じられるお話です。

第56回新潮新人賞受賞作品。第172回芥川賞候補作品。



新着資料もたくさんあります。各館の新着コーナーをご覧ください！
新刊だけでなく、寄贈でいただいた資料なども並びます。

子ども向けBookガイド

～図書館職員のおすすめ本を紹介します～

『オレは「最強」だったから』 《う4》

くすのき しげのり／作 江口 ノリコ、CAN／絵 潮出版社

はるかむかしの恐竜のせかいに、「キング」という最強のティラノサウルスがいました。あるあめのふるひ、おおきなみなりがキングのあたまにおちてしまい、気がつくそこはワニたちがくらすせかい。なんとキングは、ちいさなワニのこども「ビビリ」といれかわってしまったのです！はたしてキングはもとのすがたにもどれるのでしょうか！ワニのビビリが登場するもうひとつのおはなし『ボクは「弱虫」だったから』も絵本で読むことができます。2冊あわせて読むと楽しさも2倍でおすすめですよ！



『ときめくニッポン職人図鑑』 《750》

大牧 圭吾／著 オークラ出版

日本にはたくさんの伝統工芸品があります。そして、それらを生み出しているのが、すばらしい技術を持った職人さんたちです。この本では、31人の職人さんが登場し、どのような工芸品を作っているのか、職人を目指そうと思ったきっかけ、工芸品を作っていて大変だったことやうれしかったことなどが、インタビュー形式で丁寧に紹介されています。もしかすると、あなたの身近なところにもすてきな職人さんがいるかも？



『探検家』 《933／ランデ》

キャサリン・ランデル／著 越智 典子／訳 ゴブリン書房

突然の飛行機事故で、アマゾンの熱帯雨林の中に取り残されてしまった4人の子供たち。周りはジャングルの危険がいっぱい。生きのびるには4人で協力して様々な試練に立ち向かわなくてははいけません。意見がぶつかり合う中、やがて4人は気付き始めます。自分たちの他にも誰かがこのジャングルの中にと…。ハラハラドキドキ感たっぷりな読みごたえのある1冊！あなたも彼らと一緒に冒険してみませんか？



ティーンズ向け

『江戸を照らせ 蔦屋重三郎の挑戦』《Y 913／こまえ》

小前 亮／作 中島 花野／画 小峰書店

江戸時代中期、幕府公認の遊郭・吉原に、ある一人の若者がいました。彼の名は蔦屋重三郎。重三郎は、吉原へやってくる人々と日々交流を深めながら自身の夢であった本屋を開き、やがて出版業も始めるようになります。多くの才能あふれる新人作家たちを発掘したことで知られ、その中には、かの有名な浮世絵師、喜多川歌麿や東洲斎写楽もいたそうです。今年の大河ドラマの主人公としても大注目されている彼の生涯をたどりながら、江戸時代の出版業界の裏側に迫る物語。

